

件名 「安全保障関連法案」について十分な審議を尽くすことを求めます

要旨 このたびの「安全保障関連法案」について、参議院での慎重なる審議をしていただくよう求める意見書を提出してください

理由 寄居町議会議員の皆様には日頃の町政へのご尽力に心より敬意を表します。  
今後参議院で予定されております「安全保障関連法案」に関する審議につきまして大変重要なお願いがあります。

私たち生活クラブ生活協同組合寄居支部は、寄居町内で活動している組合員数約250人の生活協同組合です。  
私たちは、持続可能な社会を創るために、FEC自給圏（食糧・エネルギー・ケアを自給する暮らしと地域）づくりを実践していく事を活動の基本にしています。  
その活動の前提となっているのが、「平和と民主主義」がある社会です。命を脅かされない平和があり、一人一人の意見が尊重される民主主義があつて初めて、自分たちの社会を、自分たちで形づくっていくという「未来を創る活動」に取り組むことができます。  
この間の安全保障に関する論議のあり方は、「平和と民主主義」に対する脅威だと感じています。

7月15日に行われた衆議院「我が国及び国際社会の平和安全法制に関する特別委員会」に置いて「安全保障関連法案」が可決され、引き続き国会での採決に付される予定となっています。6月4日の衆議院憲法審査会、7月6日にさいたま市で行われた参考人質疑、7月13日の中央公聴会それぞれにおいて、安全保障関連法案の違憲性が問われました。賛成を表明する参考人からも、国民に不安を抱かせることがないよう十分な説明が必要だとの意見もありました。国民世論も「反対」の意思表示が多く出されています。

私たち生活クラブ生活協同組合寄居支部は、「安全保障関連法案」に反対です。平和主義を基本原理とする憲法が、「この70年の間、戦場において一人も殺さず、一人も殺されなかった国」日本を作り、平和国家としての国際的な信頼と存在感を示してきました。我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増しているからこそ、「それでも平和主義を守る特別な国であり続けるのか」という国民的な論議がなされるべきです。「武力によって抑止力を高める」こととなる「安全保障関連法案」は、かえって戦争へのリスクを高めると考えます。

集団的自衛権行使の合法化という重大な変更が、十分な国民的論議がないまま行われることは、立憲主義という民主主義のルールを逸脱する行為です。主権者である国民が権力の行使を抑制するためにある憲法が危機にさらされています。

国政を担う国会議員の皆様へ、国を形作っている基となる各自治体、私たちにとりましては寄居町民から選出された寄居町議会議員の皆様から、声をかけていただくことが大切であると考えています。

国会議員の皆様へ重ねて国民的論議を尽くすべく、地元の寄居町議会の皆様から国民の合意形成にご尽力いただけますようお願いいたします。

豊かな未来を創る活動に、安心して取り組める社会を私たちは望みます。国会議員の皆様、寄居町議会の皆様、わたしたち町民が一体となって、平和と民主主義がいきづく国家と国際的な信用を守り続けていきたいと考えます。